

萬國人物圖會

上

特別
13
3458



門へ13
3458
卷

岡田玉山画

萬國人物圖會

浪華 忠雅堂校



香田大學圖書印
26.3.8.
購 赤

異國

一覽序



東夷あづまやふい婦めかけとあそび喧わらわふあそび新あたらしし

考つとらししし小こ松まつふふをを山やまととややとと

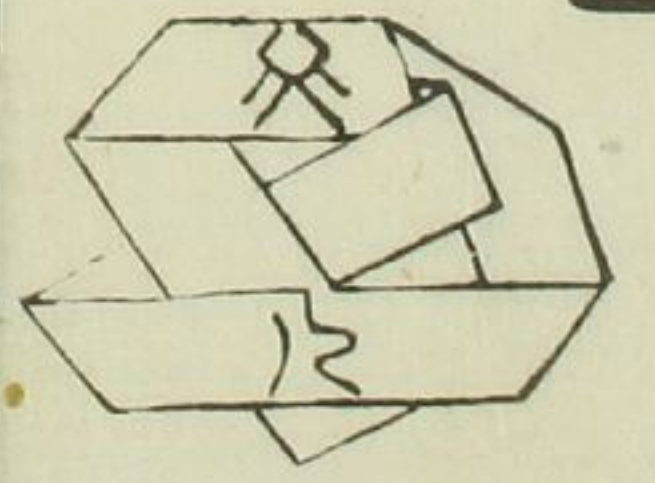
諸あま君み子のこ詠うたううををののううららししめめ我われ

志こころのの争まがつつ異あま國くに一ひと覧らんのの美うつく國くに其その真まこと

以^い之^の方^の一^の皇^の古^の平^の字^のを^を圖^の從^のの^の音^の

寛政己未五月

考光園花丸遊



畫本異國一覽卷之壹

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 巴 | 渤 | 廣 | 臺 | 兀 | 大 |
| 且 | 泥 | 南 | 灣 | 良 | 清 |
| 國 | 國 | 國 | 國 | 哈 | 國 |
| | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 暹 | 瓜 | 占 | 琉 | 朝 |
| | 羅 | 哇 | 城 | 球 | 鮮 |
| | 國 | 國 | 國 | 國 | 國 |

○大清國

杼中其美その代々

志こがくして園号

高代々別大信と号

世祖太祖皇帝ハ韓朝

國より出て明の世を討

同ろぼく國号成法と

いふたは是今ハ唐

風俗法正ハ四民の

産業業の法も日本

異ふことかハ

篆字や隸書と

唐の書やと

白粉粉々唐の砂

とて

またの親にや

や娘のちのちも

親親人も

とちのちのち

とて

ばらばら

か

おのひ

唐の人

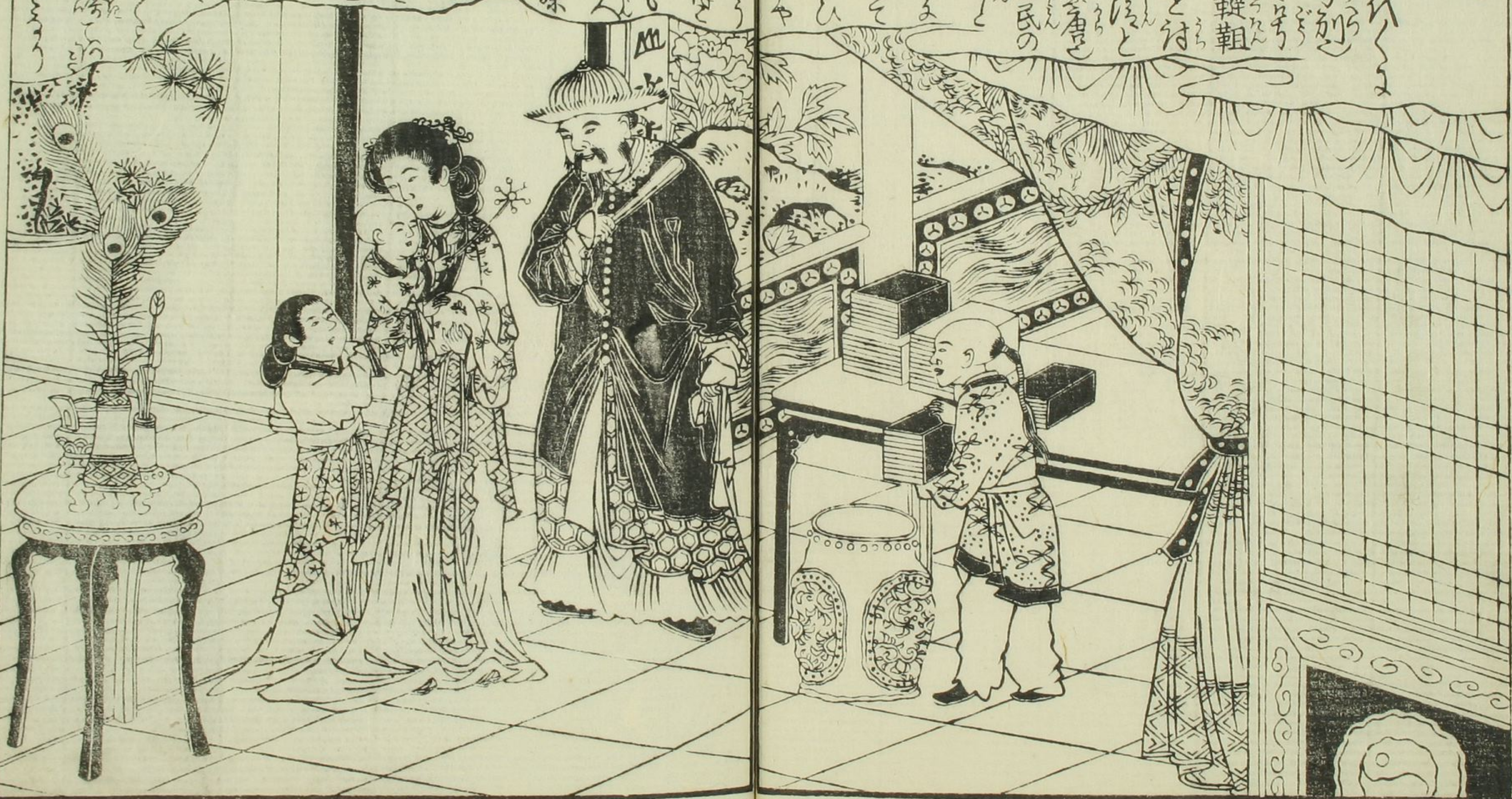
と

と

と

と

と



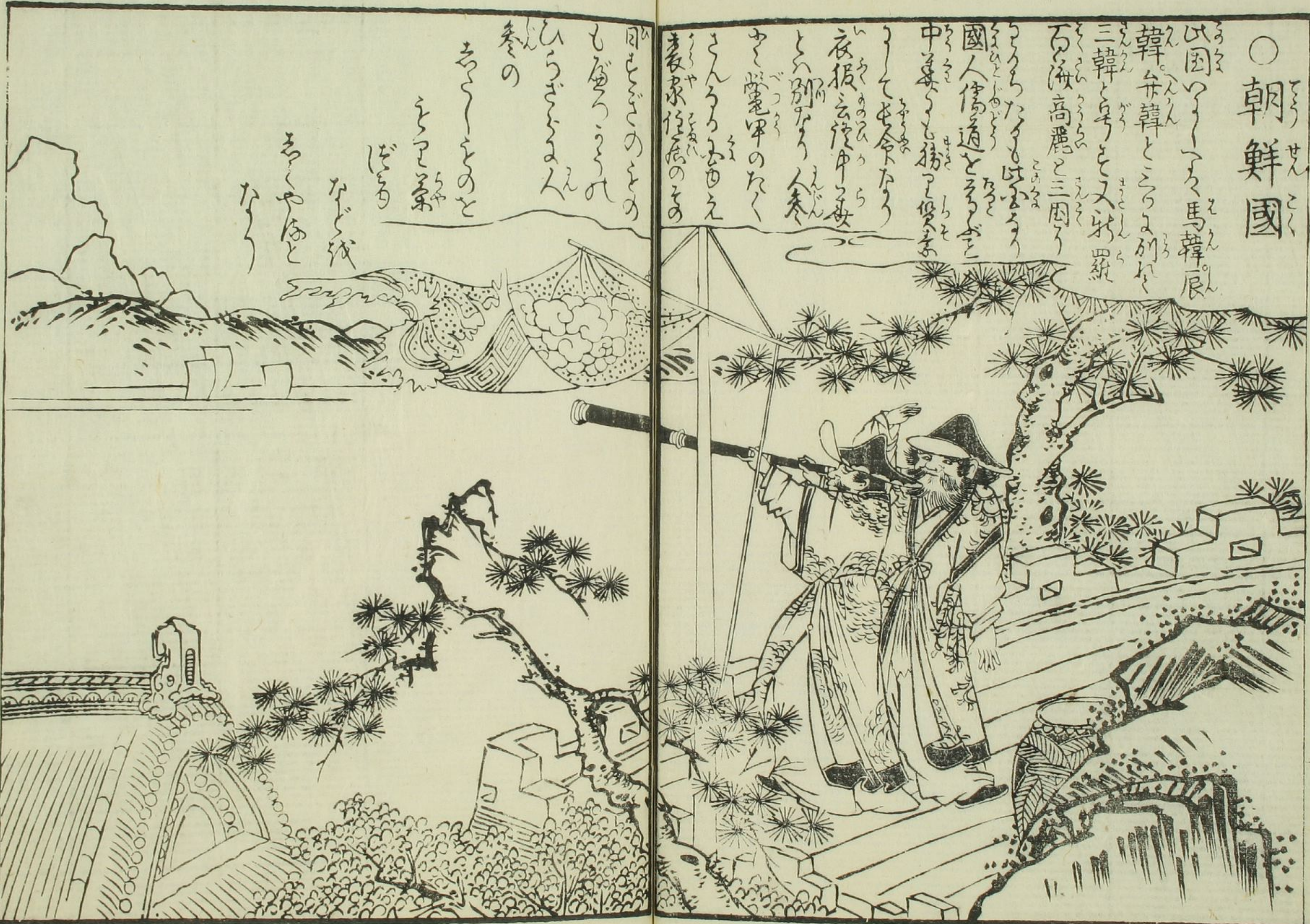
○朝鮮國

此國の馬韓辰
韓弁韓と云ふ
三韓と云ふと又新羅
百濟高麗と三國

國人僑通と云ふ
中華とも稱す
中興とも稱す
衣振云後中興
と云別なる人
少く龍甲のた

目と云ふのその
もふらうの
いらざまふ人
冬の

ま〜〜そのと
そ〜そ
ぼも
なご城
あ〜やあと
な〜



○元良哈國

朝鮮國の小白頭

山より西より

必るる風俗

又似たりは

彼がく

ライノ

後と止む

本とる

うの清

今ロ

遼来

てして

容貌

ん

倍小

ライノ

小兒

とむ

同

又

像

を

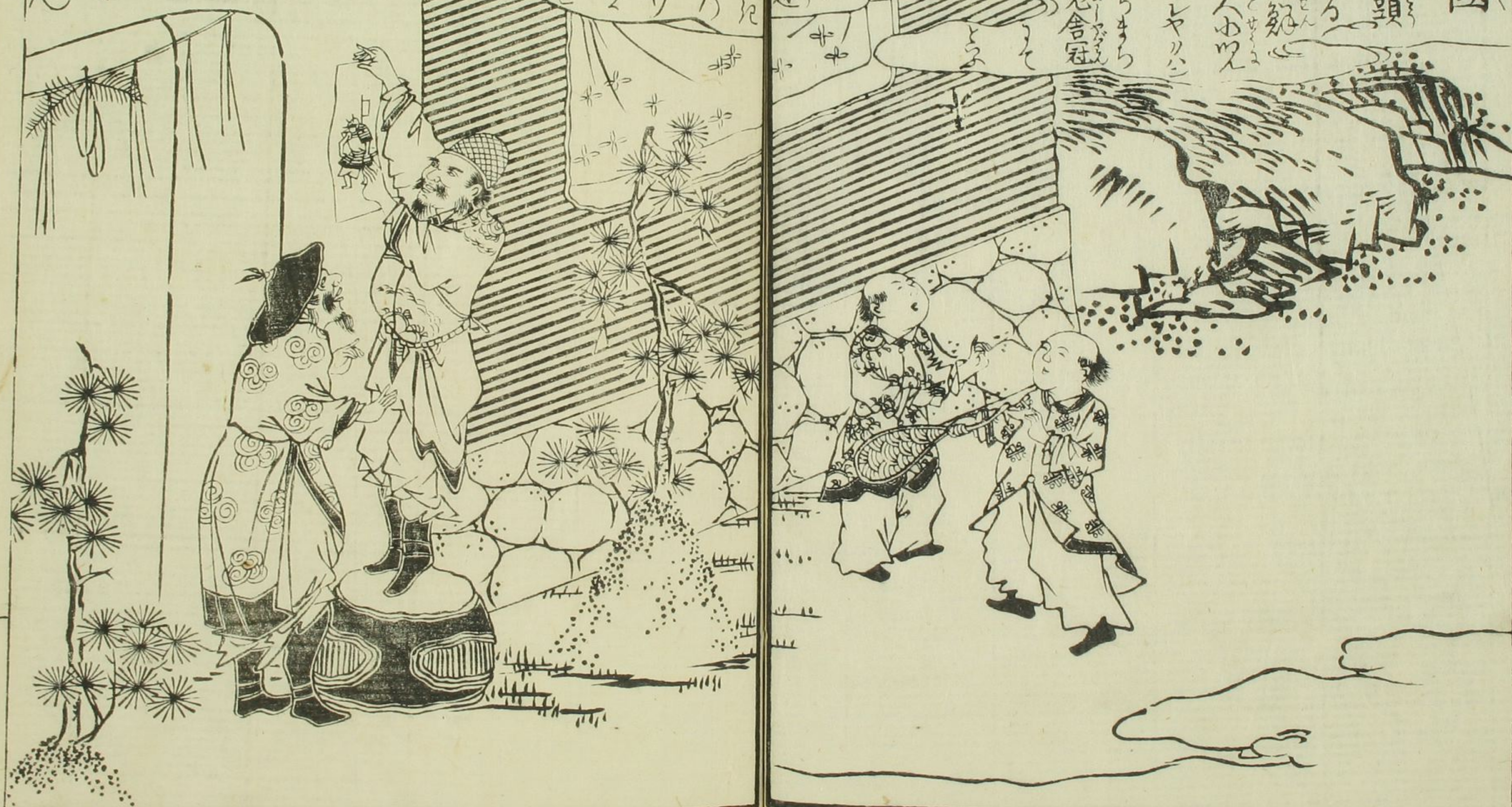
の

なり

蜀

そ

そ



琉球

國王

中山王と

号を改め中山公と

ついで日本を拜す

南より船をりて

公今の過中日本に

よりいひわが

独船を舟行し

船本などの和船の

そまひあめり

つとむるりり

いひふり



琉球國王中山王と号を改め中山公とついで日本を拜す南より船をりて公今の過中日本によりいひわが独船を舟行し船本などの和船のそまひあめりつとむるりりいひふり

芭蕉布の衣裳は流珠に

いどのものせし

備前袴の流珠技のねら

の三味線と琉

球組のふり

てまるとい

ハのり

おひら

小つら

やま

てい

かひ

や



芭蕉布の衣裳は流珠にいどのものせし備前袴の流珠技のねらの三味線と琉球組のふりてまるといハのりおひら小つらやまていかひや

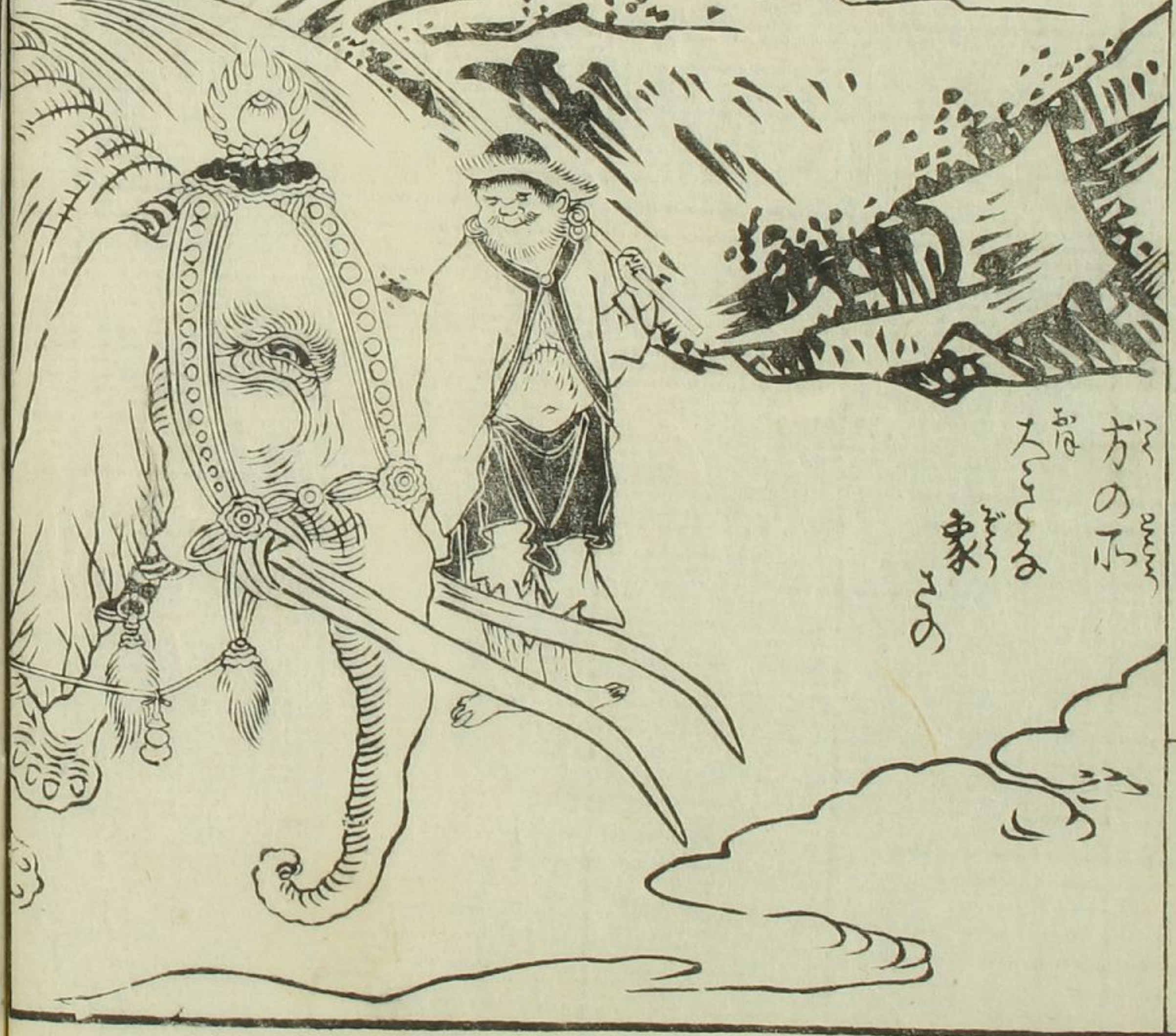
○臺 灣 國

又塔伽沙谷とていふ暖
 まうて人物のちりあひ
 とも程なり國性爺鄭成
 切りの始さるるもて之
 より翁をいへるもて
 國性爺が接門の修して
 去月のてらわくほんも
 いふやうなうらなも
 てられんとていふれ
 この路はさうさうさ
 られたの
 うら



○ 廣南國

東京の如きもの文趾
 東埔寨の如きもの物
 色野の如きもの物
 男女の如きもの物
 風の如きもの物
 麻の如きもの物
 金麻の如きもの物
 糸の如きもの物
 布の如きもの物
 麻の如きもの物
 糸の如きもの物
 布の如きもの物
 麻の如きもの物
 糸の如きもの物
 布の如きもの物



方の
 所の
 象の
 名



又巧
 匠の
 牛馬
 の
 保
 國

瓜哇國

瓜哇國南極地十度

のふくくそ日輪

山とみんぐらりう

とも執事たりう

國王たりう

吹留吧

毎年八月は

の始め

おふお

陰會

けうげ

そのま

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて

あつて



いつそのま

時々

八月

から

○勃泥國

氏哇のゆまにりく 天皇の層
 まうして都と文帛馬神と
 号まも玉王繩をもほく
 かのこくま入物とそま
 ぶのさく布のふく
 らのよまふとほまをたうけて
 院表のり入又柳の實と
 制表とて酒を造る
 け場の飲く合の檳榔
 かくる國中あるて居る
 そのさくらなるたま
 らるそそ碎たされたる
 そのにればが若そ

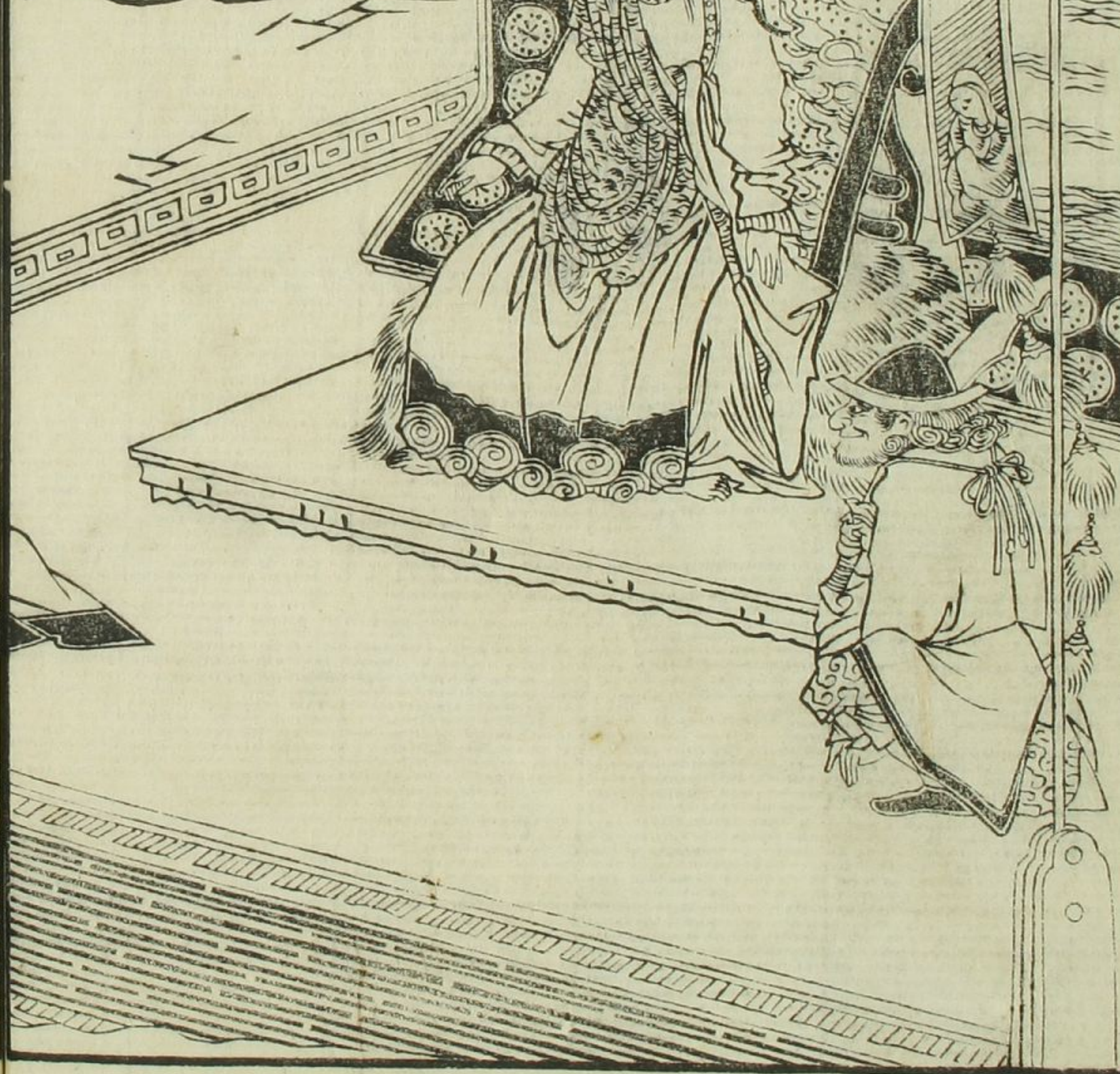


ぬんごはくふ抱
 てひのの風
 ぬ又婚披振着
 る節もいこひ月
 なまのいそ
 やして食大食
 ちて後實
 やりて
 かくるそと月
 きてほは
 たよるまん
 られざるなる二月ぬこれの
 候者ん
 らら又いこの
 解のまらるる



○ 暹羅國

東天竺の東南に
暹羅國ありて
人物色色異
髪は黒く短く
眉は白く長し
この
女のくち女の
知る男も
まゝの公の
政務の
これを司り
下をさう
心で
自然に



いかに
をたれん
十を
ふるこの
いとゆる
てこれ
あつて
の尻
るや
せい
と
と



- 波斯國
○ 大夏國
- 錫蘭島
○ 象林國
- 莫卧爾國
○ 應帝亞國
- 鐵東國
○ 哈烈國
- 蝦夷國
○ 鞞鞞國

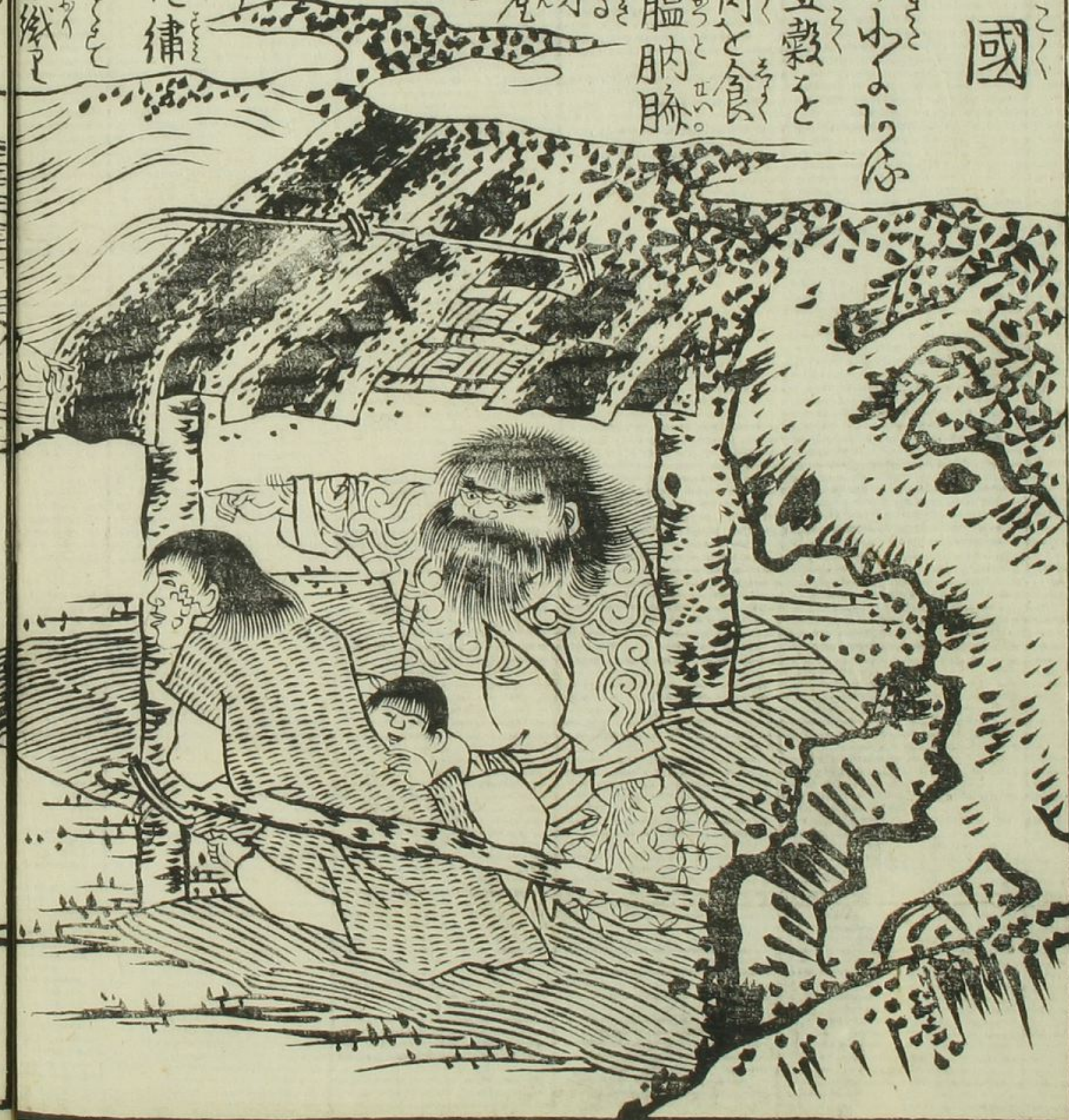
畫本異國一覽卷之貳

○ 巴且國

番且も稱と暹
 羅
 巴且加寧巴且と二持
 別る
 巴且
 芋魁を
 玉の
 盛祝
 かしら

○蝦夷國

日本奥ありしやまに
 名ありしは國五穀を
 けりて獸肉魚肉と食
 とし水豹胡狼膾膈
 鮭昆布熊鷹槍
 錦くまののねを
 物と但し袴
 靴より支那の
 へ人物男女とも
 眉毛より一入中より
 夫りる女は西よ花傭
 として夫りる下と
 衣はち若昔と織

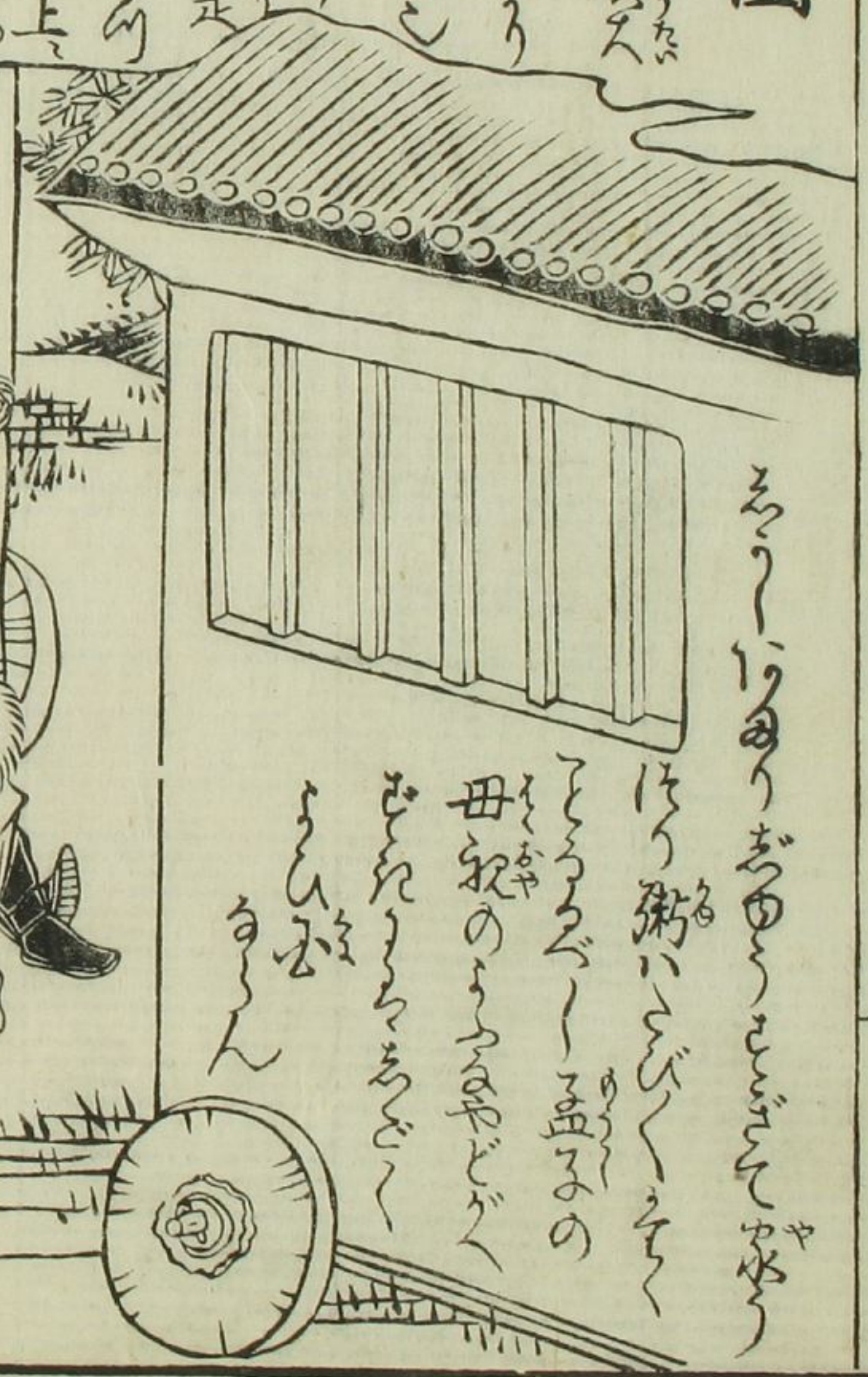


たるアらしと入布を
 用也毒はつとまひ
 こよ妙とほ
 世國ありて昆布
 とあつく産と
 よも根とぬくに昆
 布と用也又火煙
 着園たごも
 ぶさりり田か
 よふんはれぐのありから
 へこつよはらちの
 吾くくの火煙
 キくともつて
 ちかだかちん
 ちかだかちん



○ 鞆 鞆 國

この國 鞆 鞆 國
 此國四十八道はなるとて 度々
 なりぬるなりの中を毎日走り
 少くも十日も走るとも 寒くも
 六月は花の咲きぬるなり
 人物は強く 険阻と走り
 村は 多く 持捕るなり
 やつと又 又 又 又 又 又 又 又
 造るて 佐利と 佐利と 又 又 又 又 又
 今人も 考 考 考 考 考 考 考 考
 極の 考 考 考 考 考 考 考 考
 るがの 二 三 の 考 考 考 考
 の 考 考 考 考 考 考 考 考



ふつと 走りぬるなり
 けり 鞆 鞆 鞆 鞆 鞆 鞆 鞆 鞆
 母 親 の 考 考 考 考 考 考 考 考
 考 考 考 考 考 考 考 考
 考 考 考 考 考 考 考 考
 考 考 考 考 考 考 考 考
 考 考 考 考 考 考 考 考



この國 鞆 鞆 國
 此國四十八道はなるとて 度々
 なりぬるなりの中を毎日走り
 少くも十日も走るとも 寒くも
 六月は花の咲きぬるなり
 人物は強く 険阻と走り
 村は 多く 持捕るなり
 やつと又 又 又 又 又 又 又 又
 造るて 佐利と 佐利と 又 又 又 又 又
 今人も 考 考 考 考 考 考 考 考
 極の 考 考 考 考 考 考 考 考
 るがの 二 三 の 考 考 考 考
 の 考 考 考 考 考 考 考 考

ふつと 走りぬるなり
 けり 鞆 鞆 鞆 鞆 鞆 鞆 鞆 鞆
 母 親 の 考 考 考 考 考 考 考 考
 考 考 考 考 考 考 考 考
 考 考 考 考 考 考 考 考
 考 考 考 考 考 考 考 考
 考 考 考 考 考 考 考 考

○鐵東國

韃靼の南天山の東よ

り、はるの南を流るる

流沙川とらるる

その遠きところ

東西よりとるる

と南にせまき

百里のりて人駝

駝よそのと負せて

行く路を強るその

歩むるりて

しこころゆき

りてあやのんのま

とせしんはま

とてあま

やうどおのちの

ぞりて又は

なまむゆ(チロリ)たんの

そぐひたり酒を

とるびんのる

とるる

それで

とるる

とるる

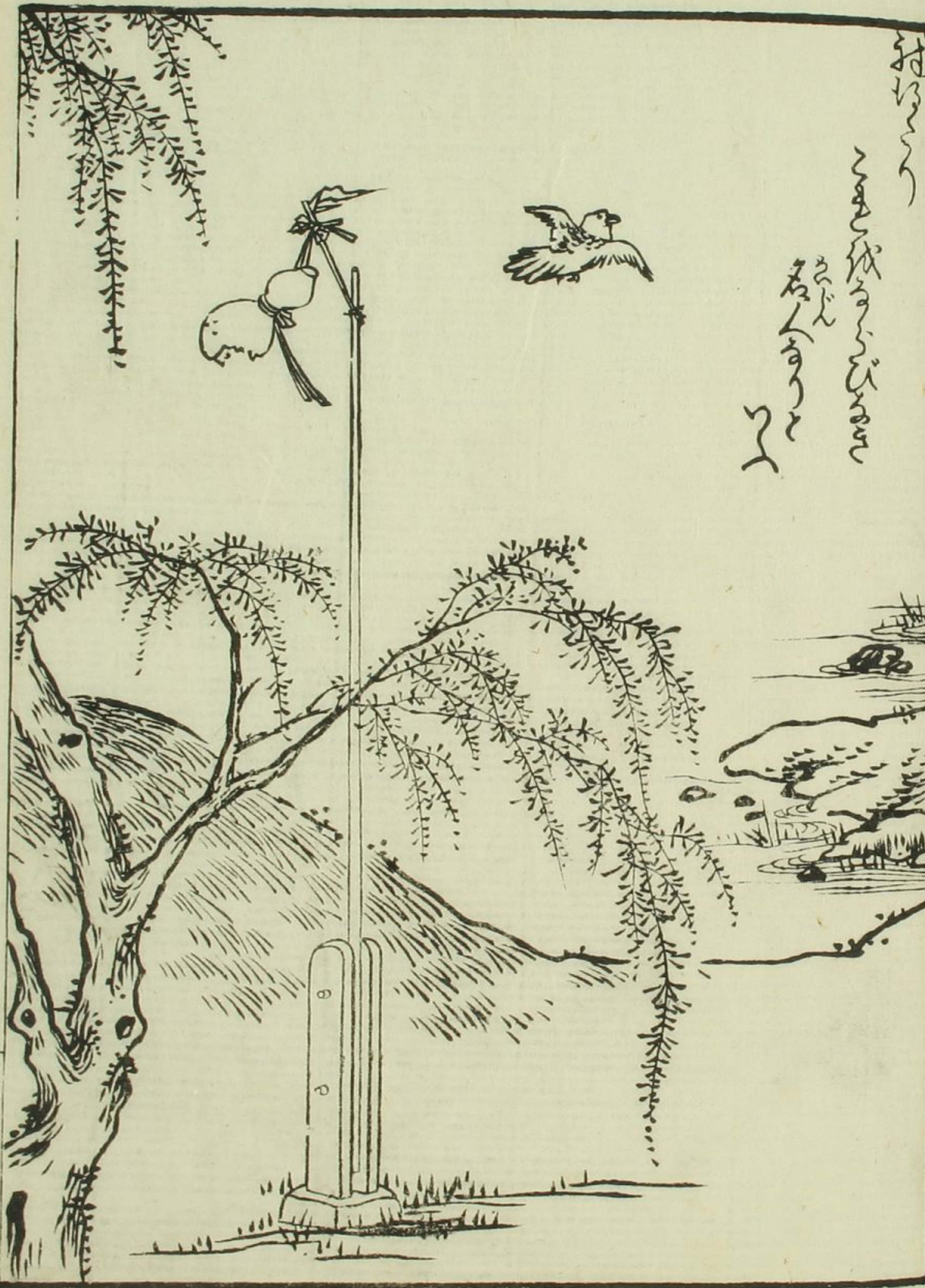
とるる



○哈烈國

人物皆多力はし
 男女も討死し
 毎月湖頭は人跡
 集りて村を住む
 卒とたてぬ故郷と
 その中へ白鶴と
 してるとねど
 是と討る故郷と討りて
 鶴を飛ぶものと上りて
 放鶴の試討とらふ西出は十六
 間堂とらふ一宮とらふ月夜
 通とたてを討しせん奉
 さらすの通とたてを

ハ
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十



○莫臥爾國

都とテルレイとあり

五天竺のうら

四つの地とあり

かくくくくく

廣大なるまこ

風俗活して宮

室を花簾とほし

衣振るるまきよ金

彌波ふの勢とま

と日本とてとる

とつる後物とほ

うう出く割る乃

早とりのりかめ

四の江の流なきと

けまてんをらほま

てやいのさる湯と

うてらと身をぬこ

んと下地たんと

相ひぞ近ひこの

地(日本)の内

本終丹波布

なと後アウーガ

てをよ採うご

て調をとてなる

んぼく丹波布

るまんとる位

らうとていさるこ

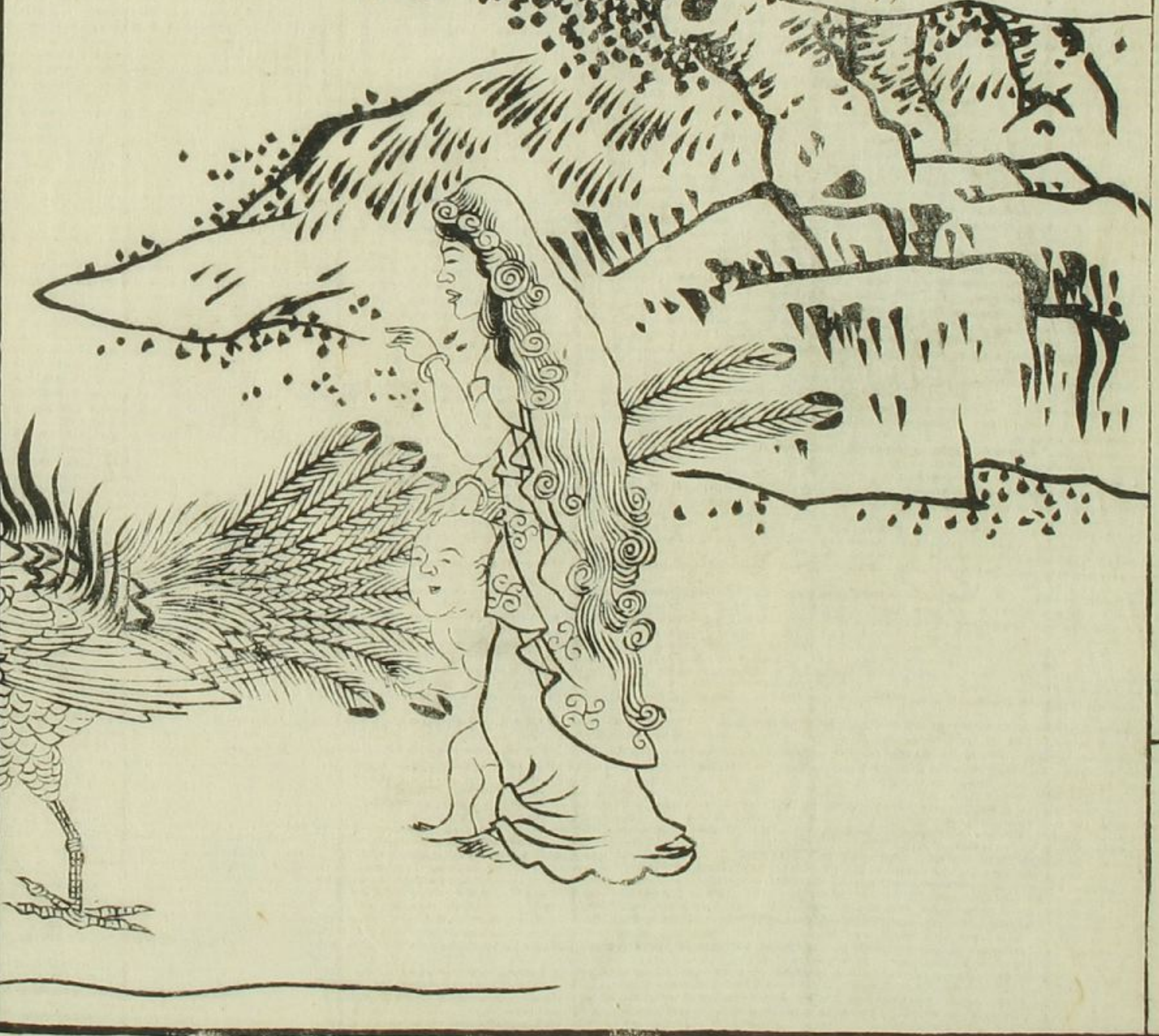
とのなうぬじ

又まら
るらん
まらとめつ
ぼく
は
よか
すり



○應帝亞國

いしるる五天竺たり
 しが今くこの南天竺の
 るはまり教とてまじり
 印度と号とて中堂
 塔伽監とてくま
 經入を唱ふ衣振り
 糸を用ひこれ天竺
 熱とるがゆり風
 風挿く日本のしる
 のどろとてりの釈迦
 如来の説法を説く
 金鑿山南海の
 中へてられと



錫蘭

南天竺の南の
 へて



○錫蘭島

日本の九十九の島を
 手懸山の上より
 士の山と云ふ

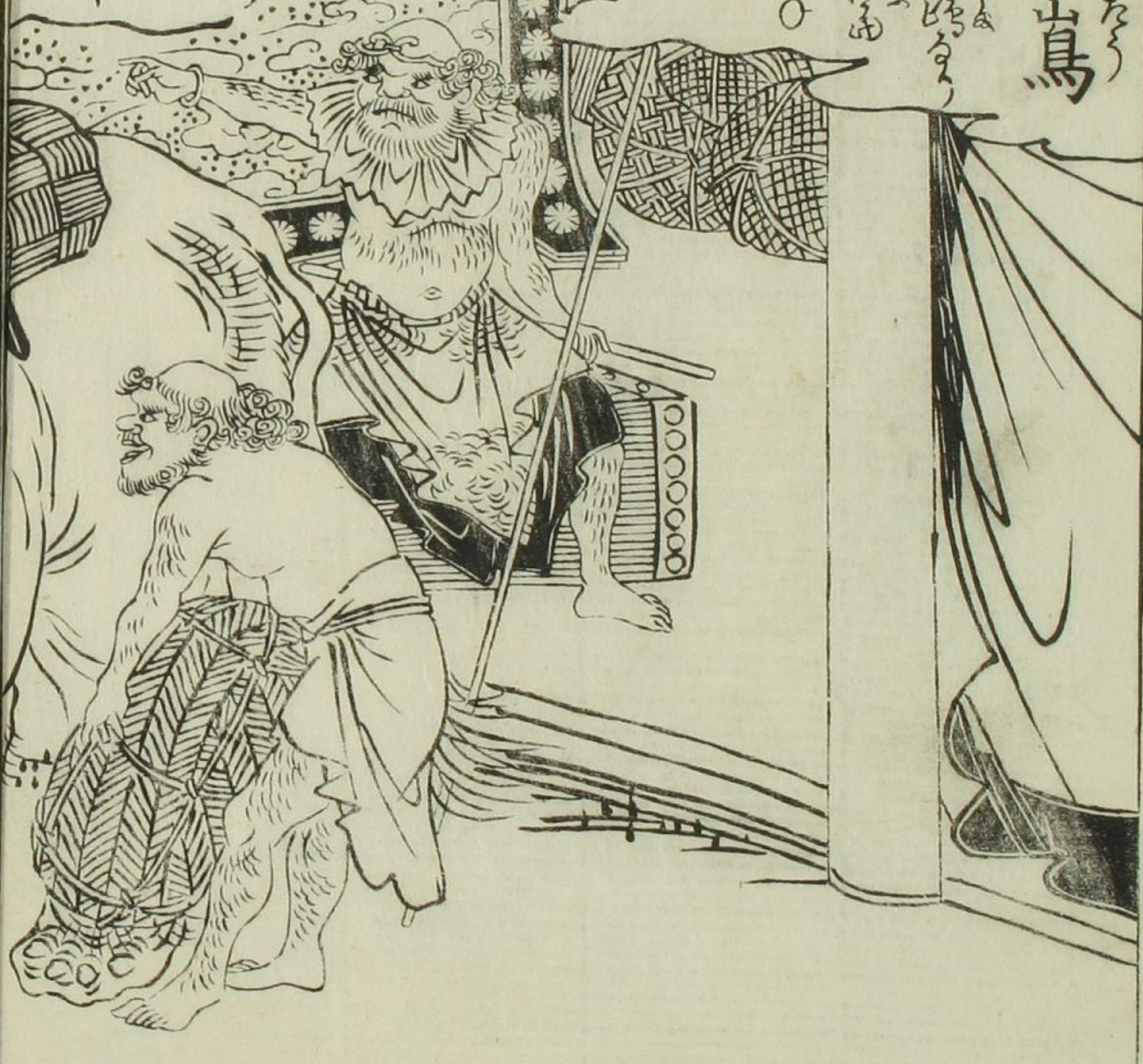
四方の船も
 して同島商人

く茶や町と
 ついてついで

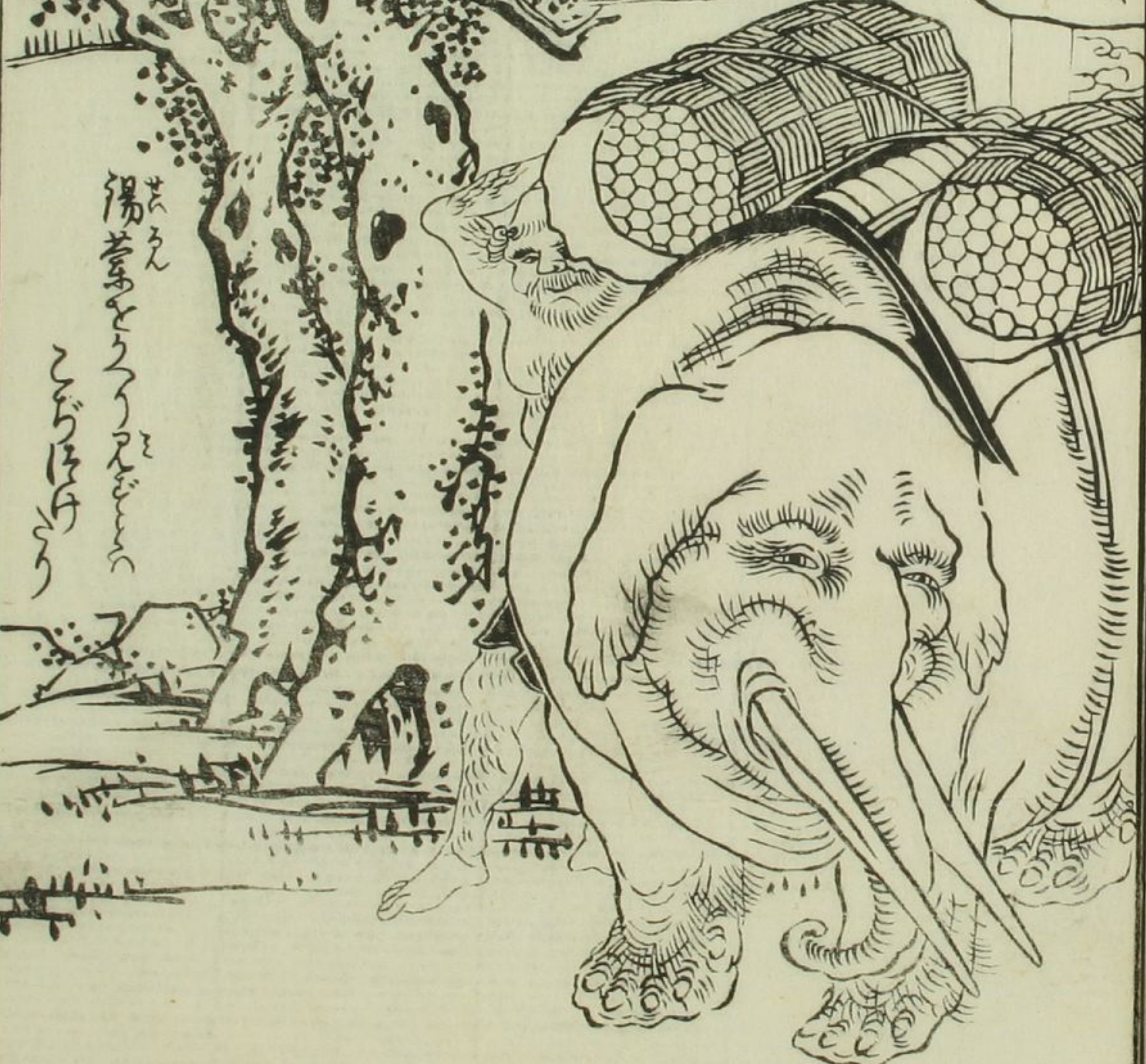
やうりては地
 象を知て牛

かすといは
 のもつとらひ

人の名を
 土人これと
 せて村の町
 が人の件と
 ついてこれ



てあつた
 びあつた
 して
 や
 り
 言



錫蘭島
 こらほけ

○象林國

西天竺のわづらひのぶら
 人々の力を酒と和して
 飲を多味とてうぬれにそ
 虚弱なる人の権をふそ
 味らうとてうりやんそ
 ちせうでひけんそこの
 又いもこのおんこり
 ころねさるそこのおん
 とひらひ細の
 むろのさうはたむら
 げよかちこひらりそ



のさむとせなす
 のさむとせなす
 のさむとせなす
 のさむとせなす
 のさむとせなす



の
 の
 の

○大

夏

國

北天竺より

小よりの大

なり人物を

白く革衣を

後と婦人々

容致美麗よ

して天下よけ

ふどろくらくさ

なごのりるわ

くつり

高山

雪あかくあつ

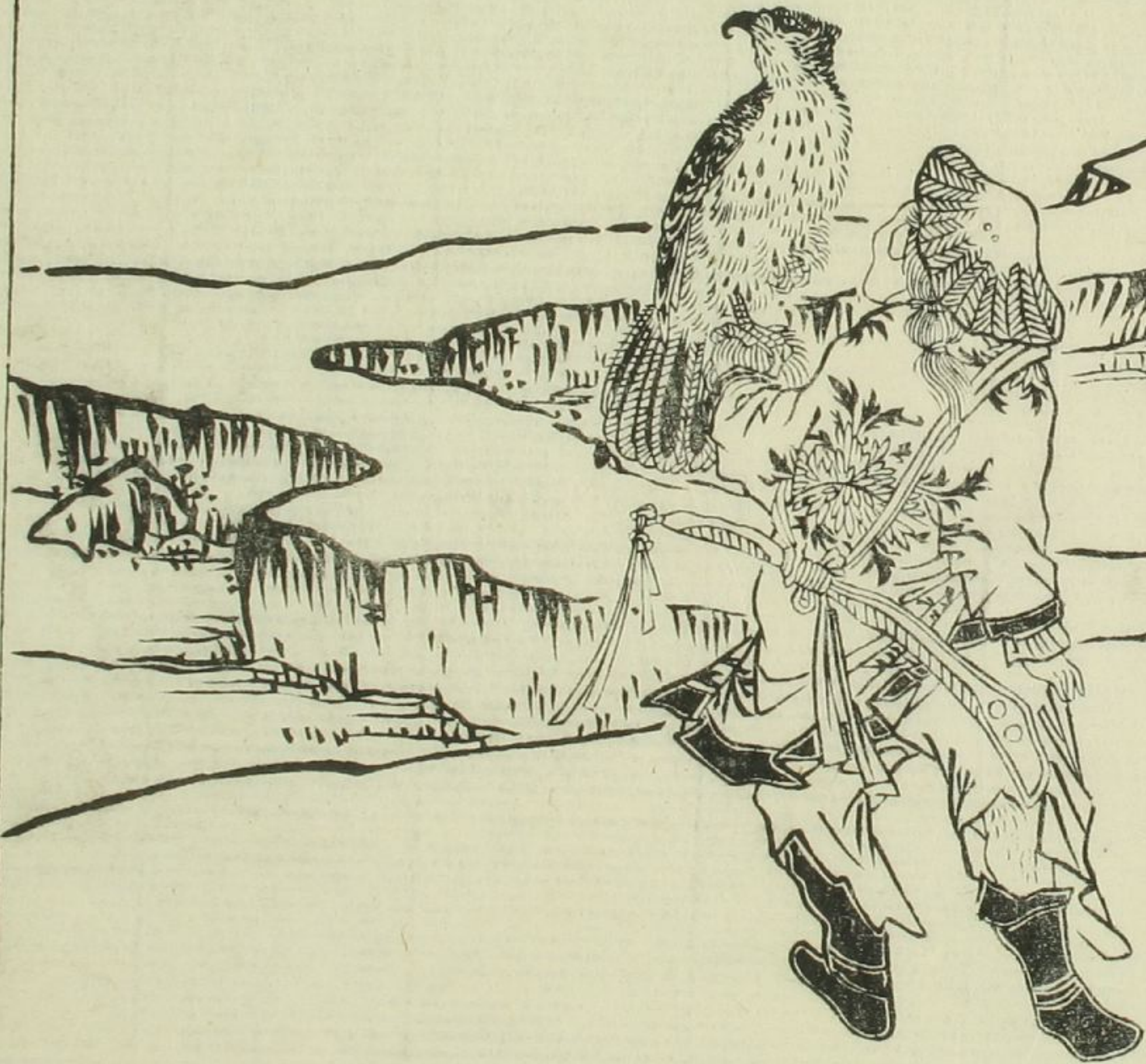
あらしの

の名をうり

よるをさ

伝

食物



○弼琶羅國

コトハ 花のなまひのち
まろとまろくめいひ
ませよふコト
いしあふれのこてん
さう けいりふひひ
まよや ころん人の
まごびん さいわい
あんなさうこそして
あつふたりそまわあ
るれおけいもまな
政もな
ちつてはく
ほくてま事
いひはよ
まごのじらよ
ていつての介
なる風信
又傾城御直
國人おろこ
こまごめ
つろくこれ
とつて日本
信
かやうみ
人物の殿
と細細
と唐
まご帰る



まごのじらよ
ていつての介
なる風信
又傾城御直
國人おろこ
こまごめ
つろくこれ
とつて日本
信
かやうみ
人物の殿
と細細
と唐
まご帰る



○波斯國

西天竺の西に隣る大なる國なり
 大いなり人物も多し
 小は甲冑の足短し
 大の股ふとまは女九の
 足短しと右の股も
 足短しと左の股も
 又行状も
 助るなり
 日本に
 とは
 かまへり

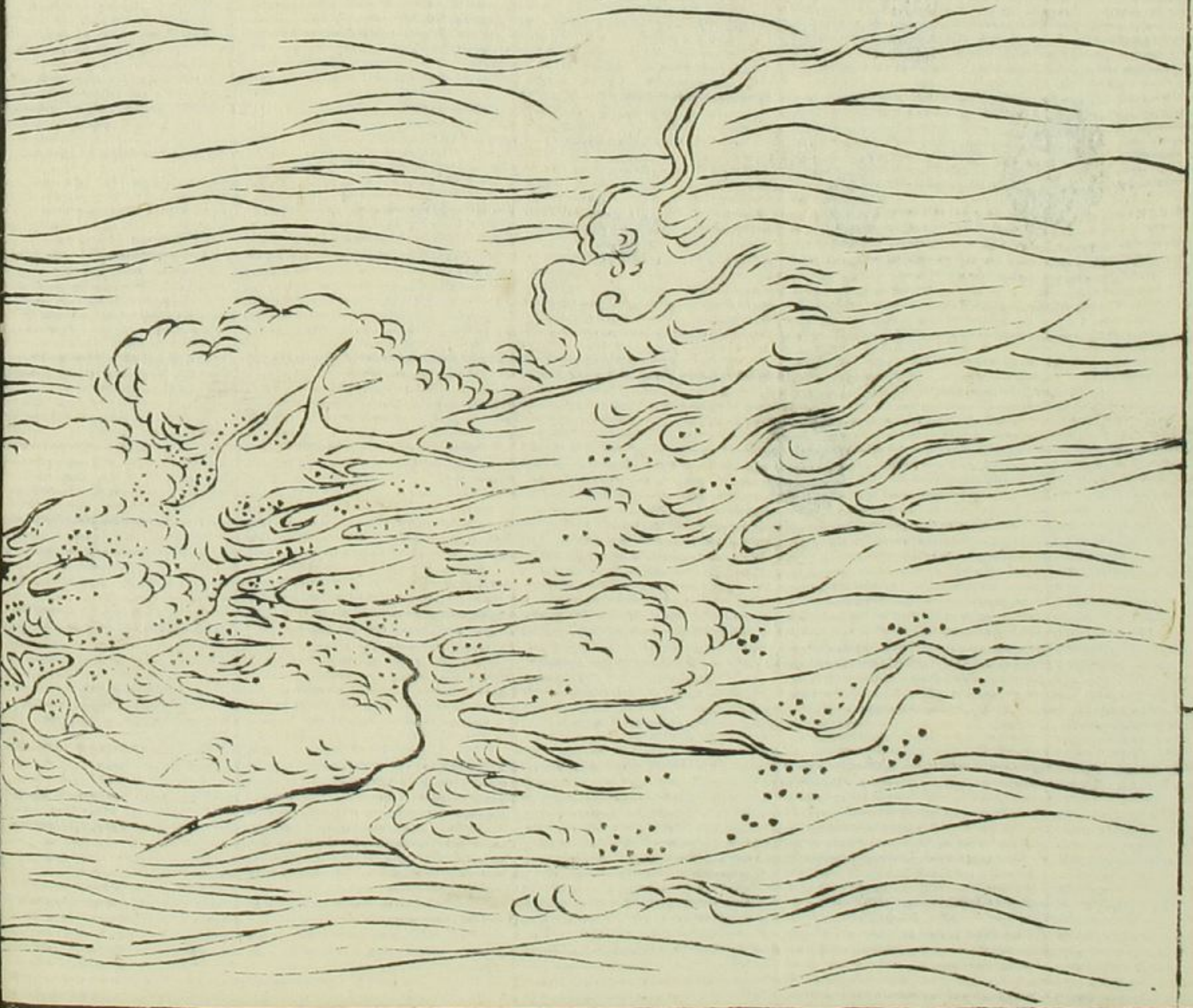


畫本異國一覽卷之叁

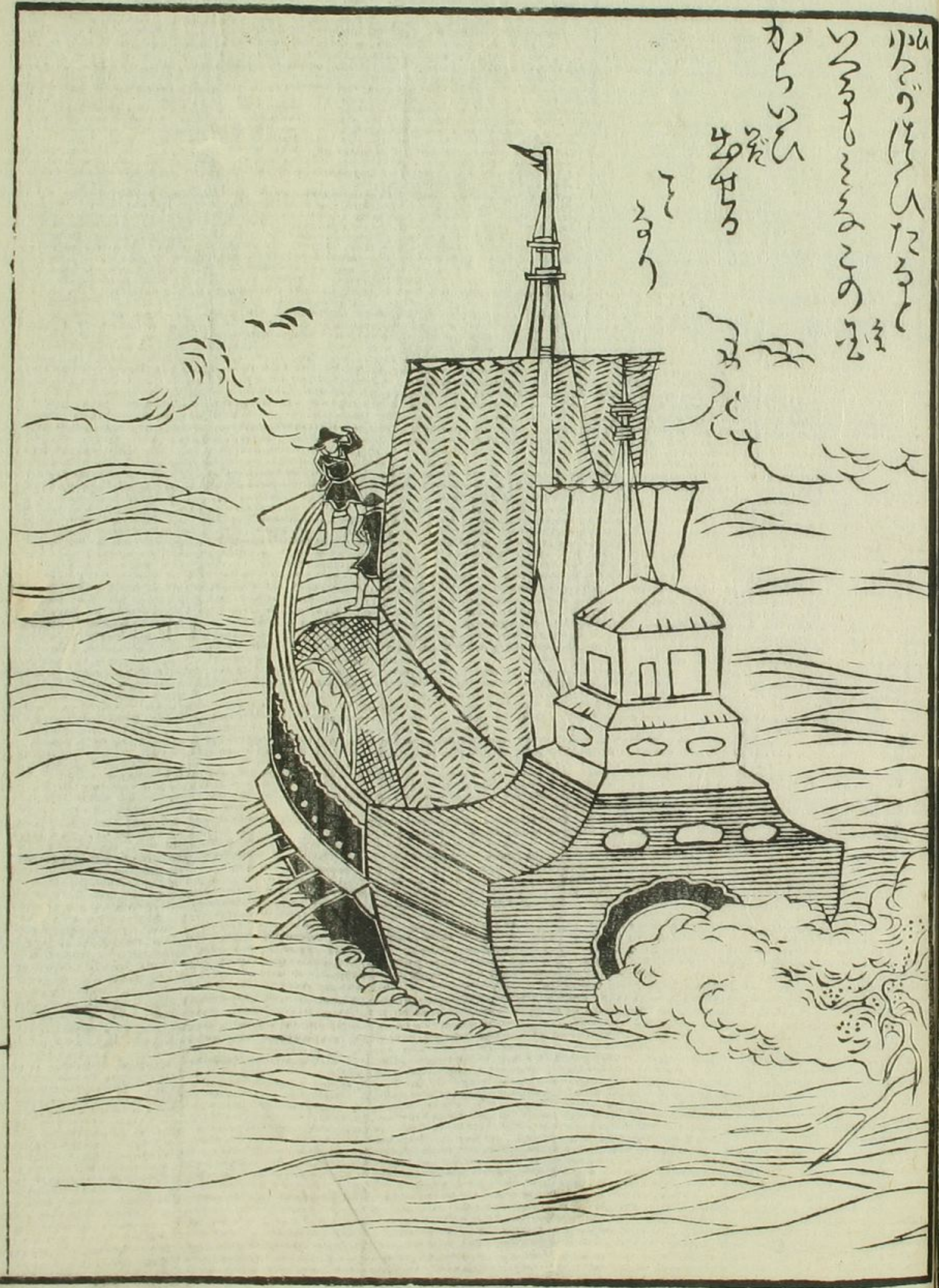
- | | |
|---------|---------|
| ○ 喞蘭陀國 | ○ 佛良察國 |
| ○ 的里亞迦國 | ○ 亞瑪作搦國 |
| ○ 諳入利亞國 | ○ 孛露國 |
| ○ 沙刺國 | ○ 婆羅斯國 |
| ○ 昆吾國 | ○ 羅得島 |

○拂良察國

おんごの南は隣り
 大まうり船を抱理
 斯とくははる器物の
 奇巧不思議の創意を
 下も産物に鹿野麝香
 本羅紗環練産物の致
 多しうろく蜈蚣船を
 造りて船は石火を
 走らす風をまき海上を
 走らばり舟をて尾は帆を
 てもまるとつふをばて尾は
 火のけりてまるとつふは
 舟して居られぬとを尾は



火のけりてまるとつふは
 舟して居られぬとを尾は



火のけりてまるとつふは
 舟して居られぬとを尾は

○的里亞迦國

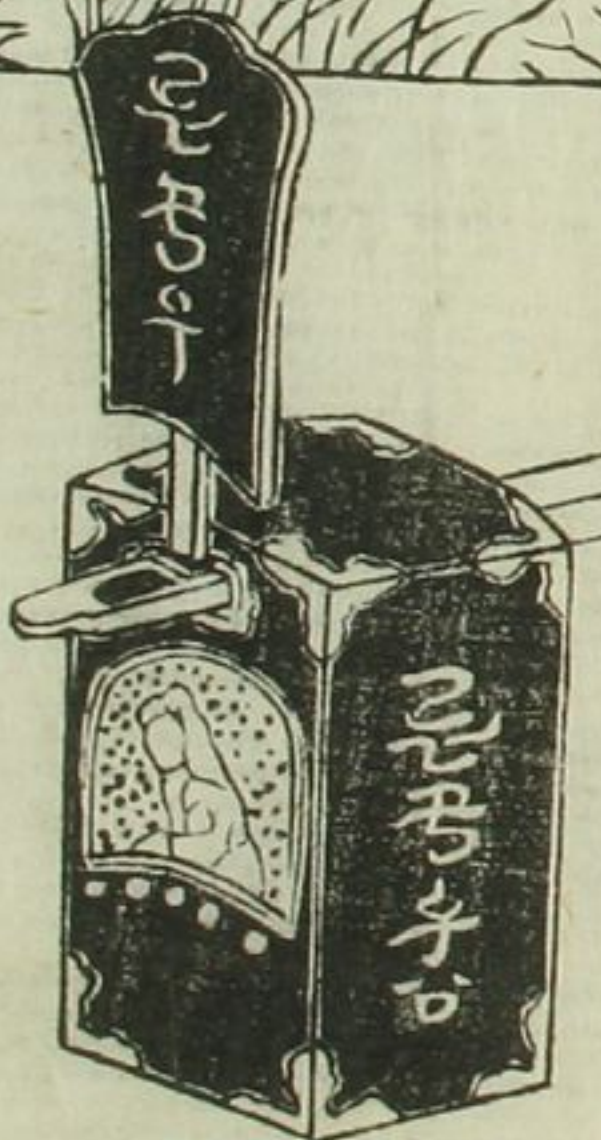
ちんごの糸
 國今膏
 と製を時
 了風らん食揚拉の



ちんごの糸
 の金限
 かせり
 けり
 の金限
 かせり
 けり
 の金限
 かせり
 けり



や
 まつら
 庫耶
 直
 まび
 る
 な
 と
 せん
 か
 こ
 こ
 さ
 こ
 下



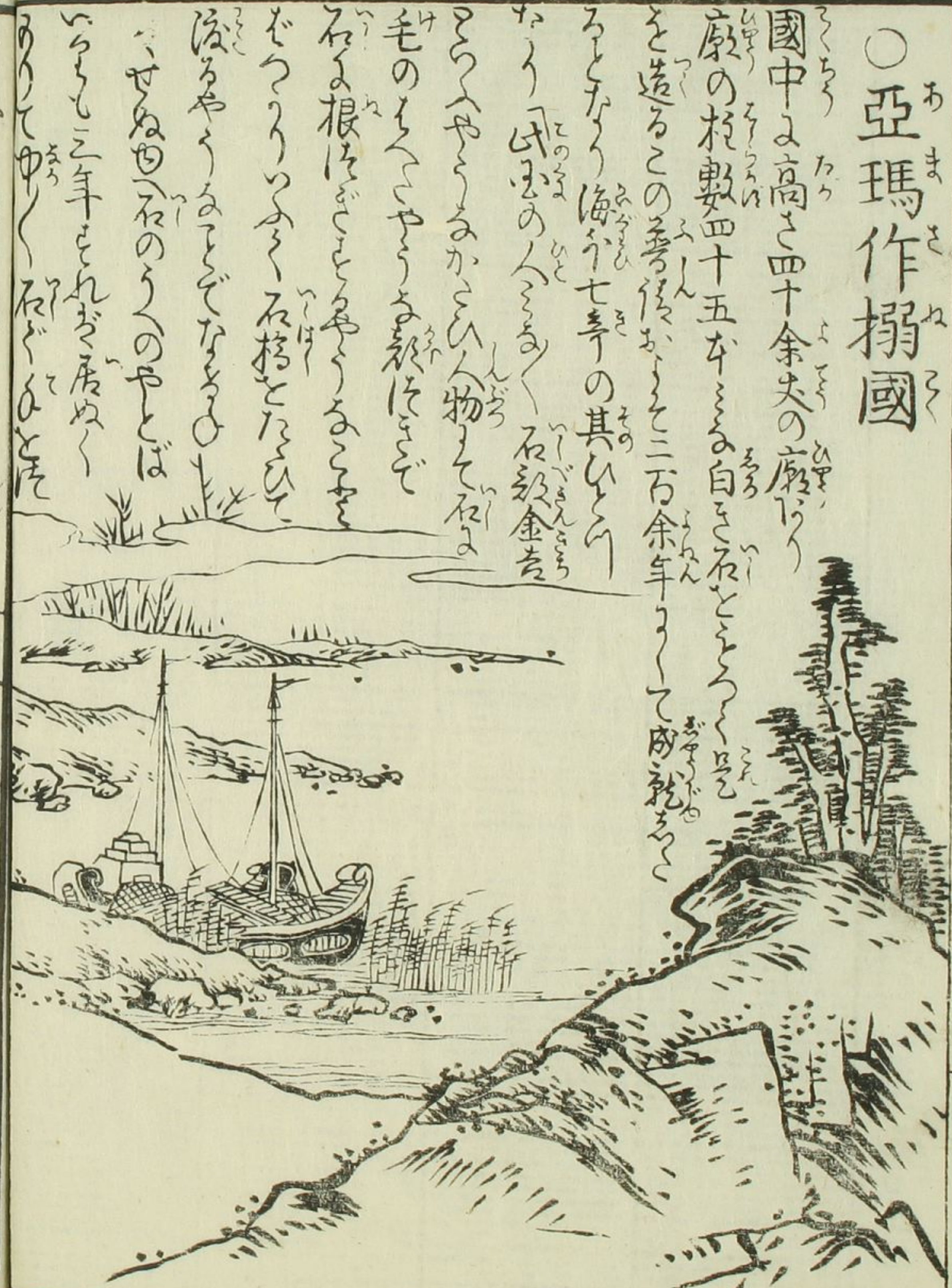
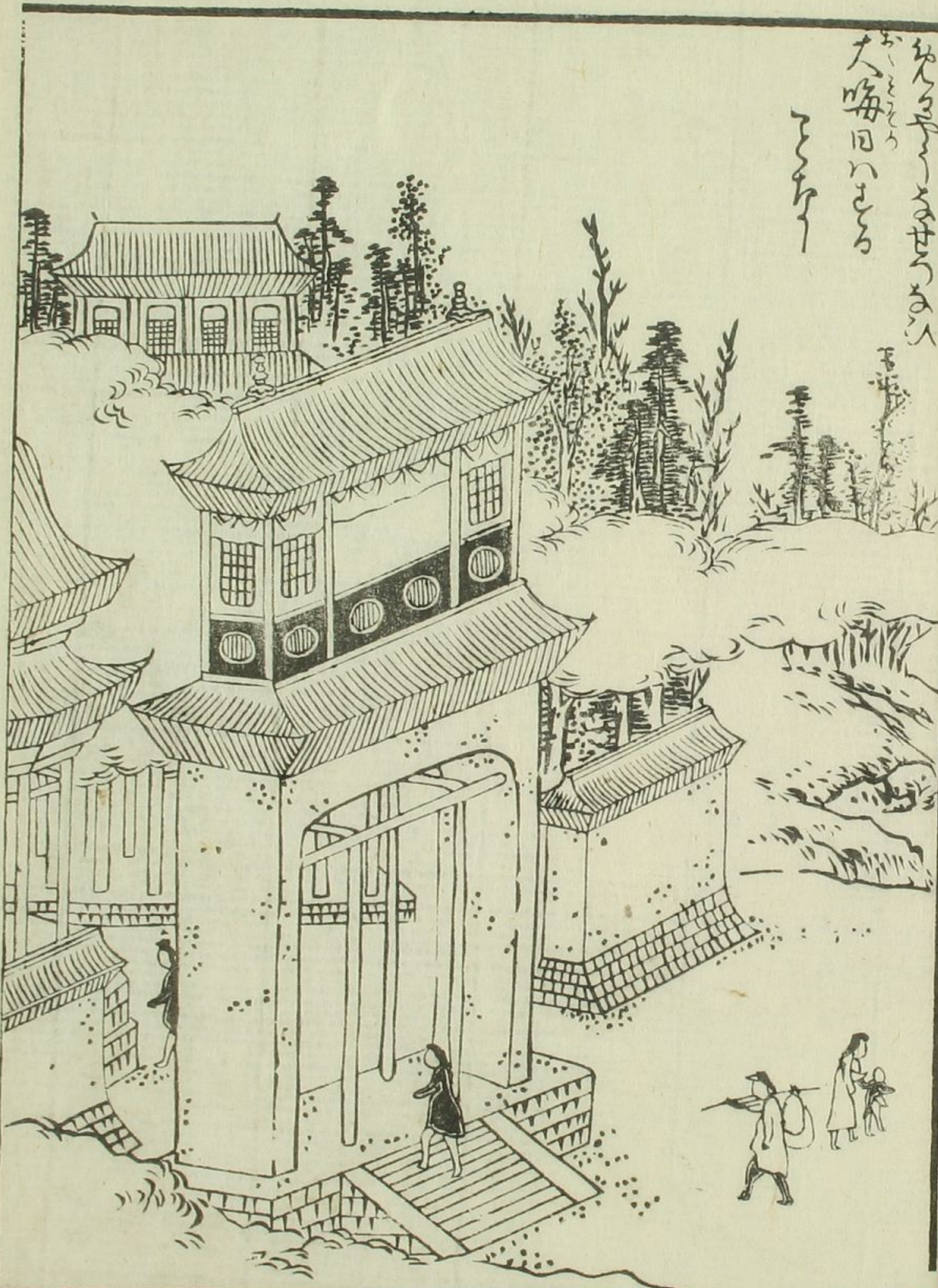
下されい

○亞瑪作搦國

國中は高さ四十余丈の廟あり
 廟の柱數四十五本あり白き石とて
 造るこの寺はおよそ二百余年ありて
 成就せり

るもたつ海は七尋の其いとも
 たり 匠玉の人あり 石級金吉
 このみやまかとい人物とて石よ
 毛のしんこやうま教はまど
 石よ根はまどまらまらまら
 まつらうらまら石塔とていひ
 後るやうままどまらまら
 せぬ也石のうらのやとは
 いらし三年とれが居ぬ
 りてゆく石まどまら

大晦日いさる
 〰〰〰



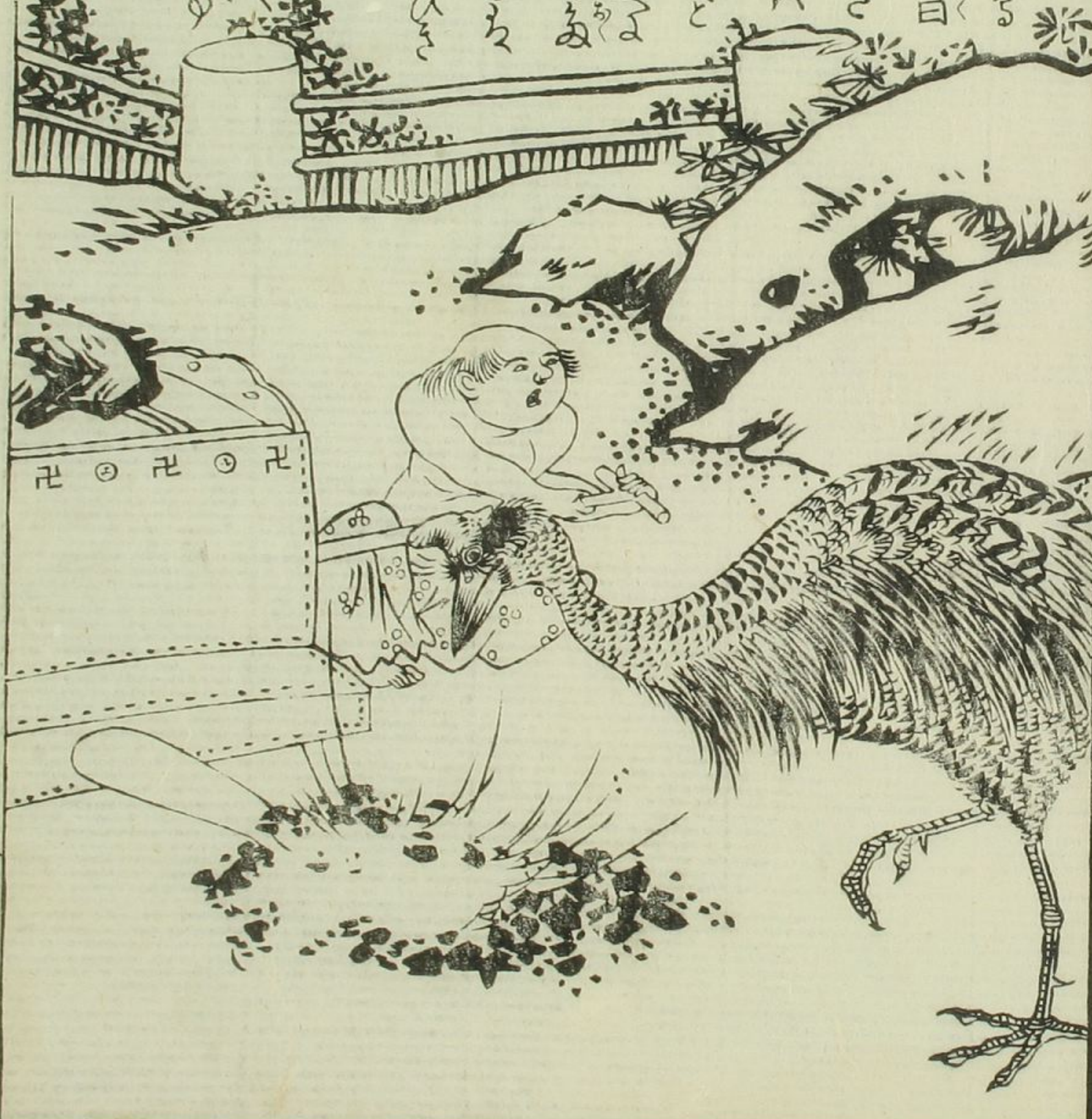


○ 諸入利亞國

あらんだの西よ向入
 崎まうけ地食
 火鶏多くて大
 さ鶴のてくお空
 へてあうてほご
 う〜項上冠むり



うりこのんで山
 火を倉へくさる
 中よ火を倉へ
 つつらむのぬ
 中らひとりの
 あうてもの柚
 こまゆき
 かししたん
 えけん
 人るる
 ちて人
 んてあ
 ちてあ
 ちてあ



ほき

○字露國

南亞墨利加ニア
の大熱なる國
人樹の下石の
よ居て水を
かこ又男も乳の
けは取東うせ
びるかるは井
るこれを常
日の織を
命を
余命を



つたまゝ七
ハナコ
と
と
と
と



○沙刺國

大正... 山...

國王

塚察と

つら

海

他

易

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

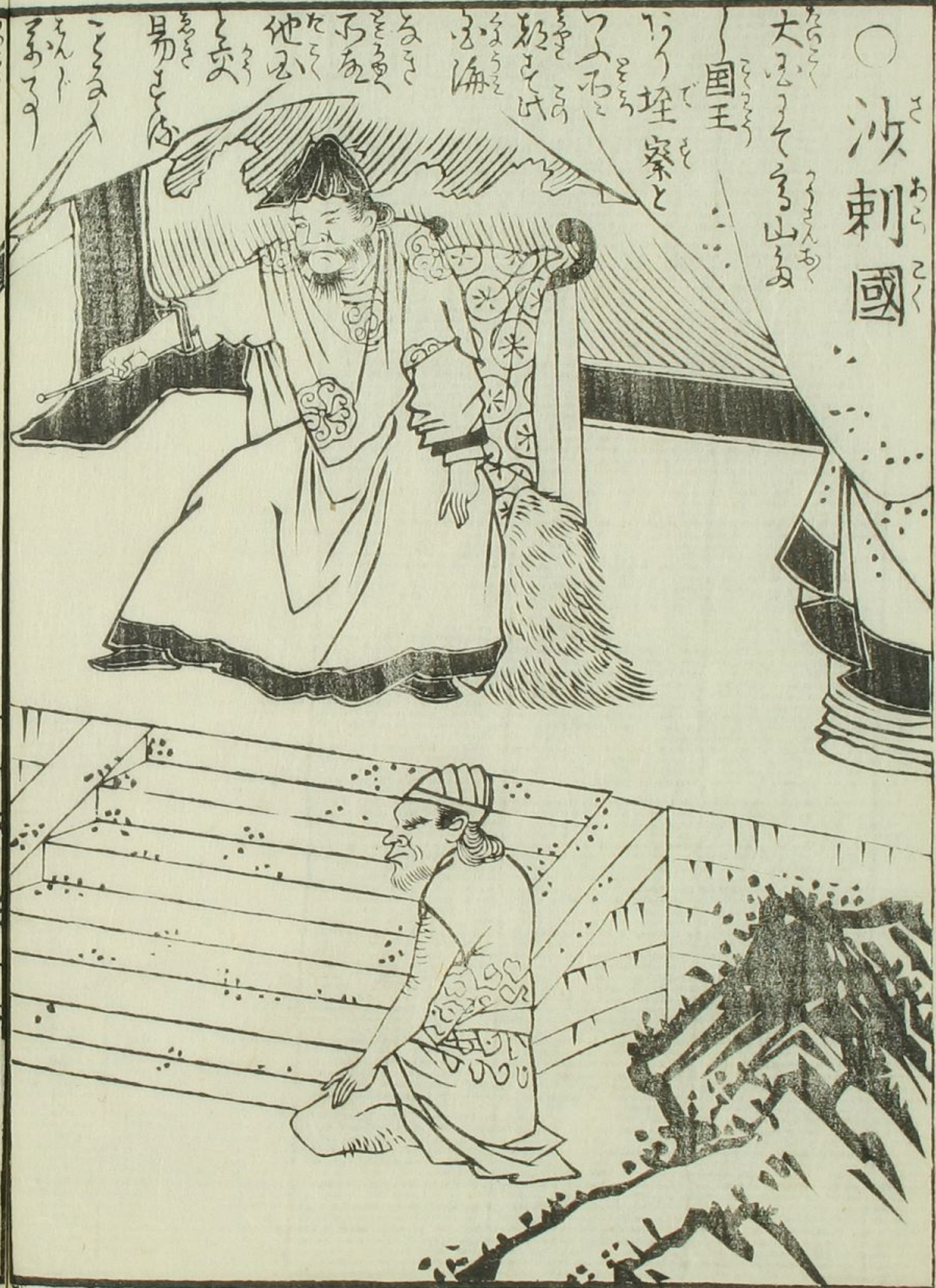
...

...

...

...

...



...

○婆羅斯國

又葛斯歌日亞

より必男女と

も勇力ありて

ほくは長劍と帶と

人こそは財宝を

うごいて他ふま

一ヶ月をたてま

あつかひする

又ゆいひのけん

くごまごつたま

らひらひら

こゝろをたてま

をたてま

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた

たつたつた



○昆吾國

昆吾の法は

と云ふ所の法を

細とみせらるる

おらん人の法の法と

やとらぬ用由扱久法ゆ

一言法はつら

火とて法を

とてとらるる

法を

釋らぬ

事とらぬ

とらるる



昆吾の法はと云ふ所の法を細とみせらるるおらん人の法の法とやとらぬ用由扱久法ゆ一言法はつら火とて法をとてとらるる法を釋らぬ事とらぬとらるる



○羅得島

地中海より島を以て法蘭西の

島船はよりりて豊饒

地なりその島の地は

皆より大人形なり西に海の中より

とて無きるを以て

その島の下層に大船の往來自由

とて大なる船を以て海船おきけり

目撃するに異國の地なり

人をもてや作らるるを羅得島と

いひたりしを以て

海船を以て

とて



